

登壇者略歴



ジョン・リー博士はアメリカン大学国際公共政策学部の准教授（国際関係論）であり、同大学において C.W. Lim & Korea Foundation 韓国学教授職を務めている。政治学を専門として学んだリー博士は、アジアの歴史的国際関係、地域安全保障秩序、東アジアにおける米同盟ネットワーク、韓国の外交政策等を主な研究テーマとしてきた。著書に *China's Hegemony: Four Hundred Years of East Asian Domination*（コロンビア大学出版、2016 年）があり、*Security Studies*, *International Relations of the Asia-Pacific*, *The Pacific Review*, *Australian Journal of International Affairs*, *Journal of East Asian Studies* などの主要学術誌にも論文を発表している。これまでにオベリン大学で政治学および東アジア研究の分野でポストドク研究員として教鞭を執った経験を持つ。また学界外では、ランド研究所の初代コリア・ポリシー・チェアおよび上級政治学者を務めた



向山 直佑

東京大学未来ビジョン研究センター 准教授

オックスフォード大学政治国際関係学部博士課程修了（DPhil in International Relations）。ケンブリッジ大学政治国際関係学部ポストドクトラルフェローを経て、現職。現在の国際秩序の根幹をなす主権国家体制が成立した歴史的経緯、ならびにそれが現代政治に与えた影響について主に研究している。著書に *Fueling Sovereignty: Colonial Oil and the Creation of Unlikely States*（Cambridge University Press, 2024）など。石橋湛山新人賞、日本国際政治学会奨励賞、アジア経済研究所発展途上国研究奨励賞等、受賞多数。



ロート・アントワンは、東北大学大学院法学研究科に特任助教として務めている。彼の研究および教育は、中国の対外関係、東アジアの国際政治、そして同地域における国際秩序の変遷に焦点を当てている。ジョージ・ワシントン大学にてアジア研究の修士号を、東京大学にて国際政治学の博士号を取得した。著書に『*A Hierarchical Vision of Order: Understanding Chinese Foreign Policy in Asia*』（ブリストル大学出版局、2023 年）がある。



佐橋 亮

東京大学東洋文化研究所 教授

東京大学大学院博士課程修了、博士(法学)。専攻は国際政治学、特に米中関係、東アジアの国際関係、国際秩序論。2025年1月より現職。東京大学未来ビジョン研究センター教授を兼任。土地等利用状況審議会委員、科学技術外交推進会議委員、日本国際政治学会理事、日本国際交流センター理事、経団連総合政策研究所客員研究委員、読売新聞読書委員、全米アジア研究所諮問委員・『アジアポリシー』誌編集委員を兼ねる。これまで、スタンフォード大学、ウィルソン国際学術センター、ソウル国立大学等で客員研究員、経済産業研究所にてファカルティフェローを歴任。著書に『米中対立：アメリカの戦略転換と分断される世界』（中央公論新社）、『共存の模索 アメリカと「2つの中国」の冷戦史』（勁草書房）、編著書に『トランプのアメリカ』（東京大学出版会）、『世界の岐路をよみとく基礎概念』（岩波書店）、『冷戦後の東アジア秩序』（勁草書房）、訳書にアーロン・フリードバーグ『支配への競争：米中対立の構図とアジアの将来』（日本評論社）など